

目 次

1～1	令和 6 年度	1
1～2	事業要目別支助額表	11
2～1	事業報告(案)	11
3～3	事業報告(案)	11
4～4	事業報告(案)	11
5～5	事業報告(案)	11
6～6	事業報告(案)	11
7～7	事業報告(案)	11
8～8	事業報告(案)	11
9～9	事業報告(案)	11
10～10	事業報告(案)	11
11～11	事業報告(案)	11
12～12	事業報告(案)	11

社会福祉法人白老宏友会

指定障がい福祉サービス事業

多機能型事業所 ポプリ

目 次

I、総 括	1～2
II、就労継続支援B型事業	2～4
III、生活介護事業	4～6
IV、日常生活支援	6～8
V、健康管理	8
VI、給食業務	8
VII、管理業務	9
VIII、利用関係状況報告	10
添付資料 年間活動一覧	11～12

I 総 括

令和 6 年度は、法人設立 40 周年を迎え、地域交流事業をはじめ先進地視察研修及び、報告会など法人全体で協力し記念事業を開催しました。本事業を通じて関係者の方に感謝の意を伝えるとともに、法人が抱える課題を踏まえ、将来を見据えた事業の在り方について深く考察する機会となりました。

制法については、報酬改定が行われポプリについては、前年度並みの決算額を収めることができたが、急速な物価高、最低賃金の引上げにより、改定内容と収支のバランスが取れず厳しい状況にあります。政府より簡易措置として『処遇改善特例交付金』、『物価高騰及び食材料費支援金』『障害福祉人材確保、職場環境改善等事業』等の交付また、決定はされたものの持続的な安定には懸念が残る状況にあります。また、従来 3 本に分かれていた処遇改善加算が 6 月に統合されました。社会情勢については、令和 5 年度に続き、国内外では自然災害が頻発し、物価高騰が社会問題へと発展しました。米不足も深刻化し、世情を表すように景気の悪化が治安に影響を与えた一年であったと感じています。感染症については、12 月下旬より 1 月上旬にかけて新型コロナウイルス及びインフルエンザが猛威を振るい約 20 名のクラスターが発生しましたが大事には至らず収束しました。事業継続計画（BCP）については、非常災害対策に加え感染症対策における研修を実施し内容の見直しと強化を図りました。

事業収入については、生活介護（介護等給付費）は、5 月に 1 名の利用者が抱える障がい特性や疾患に適した環境を整えるため他施設へ移動し、6 月には就労事業より 1 名が異動しました。長期に亘り入院された方や、感染症による療養で休まれる方もいましたが、前年度並みの利用率を維持することが出来ました。一方で重度障害者支援加算（初期加算）の終了や、看護職員の退職により常勤看護職員配置加算約 460 万円が減収となりました。

就労事業（訓練等給付費）は、3 月に新規利用者 1 名を迎え、上述の同様の事情により、利用者の異動や 2 名の退所がありましたが、前年度以上の実績を収め、基本報酬の上昇により前年対比約 973 万円の増収となりました。結果、障がい福祉サービス等収入は 176,112,143 円となり、当初予算を上回る実績を収めることが出来ました。（令和 5 年度 166,384,163 円）期末資金残高については、退職給付積立金 1,318,055 円、設備整備積立金 26,886,493 円（内就労事業 4,386,493 円）の積み立てを行い当期資金収支差額 2,741,792 円、当期末資金残高 79,965,609 円となりました。

利用者支援については、一人ひとりの意思を尊重した主体的な活動を促進しました。特に意思表出が困難な重度知的障がいや、自閉症スペクトラム障がいを抱える方には、個別支援を通じて可能な限り潜在能力を引き出し、意思決定支援を行うことで、自己選択による充実した生活環境の構築に努めました。

令和 6 年度は経済成長率の低下等の影響により円安が進み、インバウンド消費が過去最高値を記録しました。白老町においても訪問者層に変化が見られ、国内外からの観光客の姿が多く見られました。一方ウポポイの入館者数は減少傾向にあり、令和 5 年度と比較するとテナントの集客率は 20%低下しました。物価高が続く中、製品価格の見直しや販売戦略の強化に努め、職員全体の連携と努力が実を結び就労事業収入は過去最高額の実績を達成することが出来ました。清掃事業においては、公共の施設内での活動ということもあり、感染予防対策に留意し取り組んできた他、給食事業を含む食品事業については日常的に衛生管理や食中毒防止対策に注力しました。当初予算 9,759 万円に対し、前年対比約 124 万円増額の 97,244,694 円を記録し就労事業総収入としては過去最高額の 100,808,292 円に達することが出来ました。内就労事業収支差益の 4,063,625 円は設備整備に積み立てを行い、月額平均工賃については 50,156 円を支給することが出来ました。

生活介護については、個別支援の推進を課題に療育、創作活動を基本に支援を行いました。
従来の活動に加え、令和6年度は心身の安定を目的に、視聴覚要因を考慮した活動環境の整備を行い、新たにスヌーズレンを取り入れました。生産活動では、自家焙煎珈琲豆の売上向上を目的にドリップ式バッグの販売を開始した他、利用者が描いた絵画を活用したアート製品としてTシャツ、トートバッグの販売を実施しました。障がい程度に関わらず、幅広い利用者が創作活動を通じて社会参加を促進できるよう次のステップに進む準備を行う一年としました。
就労事業収入については当初予算330万円に対し、3,563,598円の売上実績を収め、収支差益322,868円は設備整備に積み立てを行い、月額平均工賃6,561円を支給することが出来ました。

職員の研修については、個人の課題や制度に沿って実施し、人事考課等を通じて人材育成を行いました。権利擁護については、令和5年度に続き北海道知的障がい福祉協会が主催する権利擁護伝達研修を受講し、日高、胆振地方会において伝達者として講演を行いました。定例会では、厚生労働省の情報を基に啓発を行い、組織全体の権利擁護意識向上の徹底に努めました。

Ⅱ、就労継続支援B型事業

■就労事業概要

令和6年度は、物価上昇の影響で実質賃金が伸び悩み、個人消費の停滞といった厳しい経済状況の中でも、就労全体で協力し合いながら事業の安定運営と改善に努めた。活動においては、利用者主体性を大切に支援を継続しつつ、就労事業収入の確保と工賃向上に向けた取り組みを進め、就労会計目標売上（就労食品事業、給食部、清掃部含む）は97,590,000円に設定。急速冷凍庫の導入や製パン講習会を実施し、製造技術と品質管理の向上を図ったほか、冷凍自動販売機の設置や新商品の開発、広報強化に取り組んだ。また、主力商品の見直しや法人内事業所みらいえ「ジェラテリア ミナ・ピエノ」とのコラボ製品の販売など多様な展開を進め、季節や動向に応じた戦略的な販売を実施した結果、就労事業収入実績は97,618,602円となった。収支差額は4,063,625円のプラスとなり、設備整備積立金に積立てている。利用者工賃については20,463,836円を支出し、平均工賃額50,156円（前年度49,846円：310円の増額）となった。

■食品事業

令和6年度においてもお客様に愛される店舗づくりを課題（クオリティの高い製品作りと安心な製品提供）に、毎月一回の就労会議を開催し、課題（店舗販売、製造、衛生管理、健康管理など）の振り返りや売上状況などを把握し、全体で共有を図りながら意識を高めてきた。また、安全に事業運営ができるよう、HACCPの考えに基づいた衛生管理の実施と、外部委託（株式会社ダスキン）による衛生検査を8月と12月に行い、衛生状況の把握と改善に努めた。

【ポプリパン工場】（製造部門）

パン・菓子・餅の製造を通じて、店舗販売（ベーカリーショップななかまど、sweets café ななかまど イレンカ）、福祉施設関係、保育園、学校関係、各飲食店等の納品、ふるさと納税返礼品事業、北海道応援トックなど幅広い販路を確保し、事業収入の柱として安定した運営を行った。繁忙期にも対応できるよう高機能な急速冷凍庫を新たに1台導入したことで、効率的な製造と在庫管理が可能となり、製品の品質維持にも繋がった。また、木田製粉株式会社より講師を招いて製パン講習会を実施し、製造技術の再確認と職員・利用者のモチベーション向上を図った。利用者の機械の操作については、ケガや事故に繋がらないよう安全面に配慮した。

【ベーカリーショップななかまど】(販売部門)

物価上昇と節約志向による消費行動の変化を受け、日曜日営業を廃止し、より集客効果の高い祝祭日に営業を切り替えるなど、柔軟な体制整備に取り組んだ。新たな取り組みとして冷凍自動販売機を導入し、看板製品の冷凍クロシューをはじめとする新たな商品展開に挑戦し、顧客取得を目指した。売り上げは想定を下回る結果となったが、お客様の声や現場での気づきは、今後の商品開発や販売戦略の見直しに活かせる有意義なものとなった。広報面では、SNS(公式LINE、Instagram、Facebook)や旅行情報雑誌「じゃらん」への掲載を通じて、地域内外の情報発信と認知度向上に努めた。また、検討していたオンラインショップの開設については、令和6年度の実施には至らなかったが、令和7年度中の開始を目指す。その他、季節に合わせたフェア、周年記念感謝祭、初売りセールを開催や、地域イベントの積極的な出店を行い売上向上に努めた。店内では餅商品の新たな展開や菓子コーナーの陳列を見直し、売場の魅力向上に努めた。また、食品ロス対策として継続している「リベイク」は、開始から3年半が経過し、現在も安定的な運用が続いている。

【sweets café ななかまどイレンカ】(販売部門)

ウポポイにおける来場者の動向に着目し、主力製品のアップルパイに加え、季節限定製品や法人内事業所「ジェラテリア ミナ・ピエノ」とのコラボ製品(ジェラート)など多彩なスイーツ・お土産品を販売した。旅行雑誌「じゃらん」に情報を発信し、売り上げ向上に努めた。イベント時には全体体制での応援により11月3日の無料開放日では過去最高となる95万円を記録した。また、冬季対策として週末限定で調理系パンの販売を行い、集客維持に努めた。今後は主力製品を厳選し、安定した売上の確保とさらなる品質向上を目指す。

以上の事を踏まえ、将来的に利用者が安心して『働ける環境を確立』し、豊かな生活を営むための『工賃財源の確保』を保持していくためにも、民間企業同様の視点を持ち、時代の流れを絶えず察知しながら新しい物に目を向けた事業運営と危機感や探求心を持ちながら取り組む姿勢が不可欠であるとする。

1) 利用者支援

利用者主体の就労現場を意識し、利用者個人が就労意識や自立心を高め、就労活動を通じて社会性を養っていただけるような環境づくりに努めました。就労活動において、個人が抱える問題や悩み、また課題を明確にし、利用者一人ひとりが想いを主張し、目的に則した形で活動を行っていただけるように、定期的に利用者会議を行うなど、個人目標を立ててもらい活動を行ってきた。個別の支援では一人ひとりの障がい特性を理解し、得意とする作業内容を選定し技術の習得と向上に努めました。技術の習得や成長には個人差は見られますが、社会性及び作業性共に個々の成長が見受けられた。

令和6年度については、更に利用者の主体性を高め、同時に作業意欲の向上を目指していくため、利用者個々の特性に合った活動を提供し、必要に応じて職員がサポートを行った。就労学習会では、食事マナーや活動の振り返りと、視察研修(小樽、札幌方面の生産工場やパン・菓子店の見学)を企画し、社会性や就労意識の向上に繋げた。

2) 衛生保持、危機管理

食品を取り扱う部署としての意識を高めるため、日常的に必要な情報、知識等を適宜周知し食中毒や異物混入の防止に努めた。また安全な食品提供を行うため、作業場内の衛生保持や白衣の点検等に努めた。

危機管理においては、基本的に危険な機器を扱う部署でもあるため、機械の使用については職員の許可がある者に限定すると共に、取り扱いの注意を随時促すなど予測できる危険、事故については日常的に職員が目を配り事故防止に努めた。

3) 設備整備

パン工場：急速冷凍庫 1 台

ななかまど：冷凍自動販売機 1 台、製氷機 1 台、空気清浄機 1 台、エアコン 1 台、外壁塗装
タイルカーペット更新

■給食事業（内部請負部門）

就労事業として給食業務の実施を行い、利用者の個々に合った作業を提供することにより技術の習得や責任感を培うことができた。また、給食会議に参加することにより職員との意見交換ができ、作業意欲の向上、社会人として意識を養う機会とした。利用者の健康面を考慮し肥満食、刻み食などの提供を行った。特別給食については、感染対策を講じながら 7 月に流しそうめん、10 月に BBQ を行った。

作業面においては、安全面に配慮し、衛生管理の徹底を図った。特に食中毒に細心の注意を払い、手洗い、消毒、適正な処理等、事故防止に努めた。

調理以外の作業として布巾縫いを行い、実生活でも役立つ取り組みを行った。

近年の物価高騰や食材費の上昇により、日々の献立の工夫や仕入れ内容の見直しが必要となり、限られた予算内での提供に苦慮する場面もあった。創意工夫を凝らしながら対応してきたが、法人全体で協議を重ねた結果、令和 7 年度より給食費の改定を行い、従来の 1 食 300 円を 360 円に、それ以外は 380 円から 440 円に決定した。今後も質を維持した給食提供を継続していく。

■清掃事業（外部請負部門）

令和 6 年度も施設外就労として総合福祉センターいきいき 4・6 の清掃業務を行いました。

白老町より委託事業を請け白老町総合保健福祉センター（いきいき 4・6）の日常清掃業務の活動を実施した。地域住民が日常的に利用する公共施設内で行う委託事業であるため、地域との繋がりを大切にし、評価、信用性を第一に意識するなど、業務上における事故防止などの安全に配慮し、日常業務に努めた。また、業務を通じて利用者個人が社会性や自立心を養い、作業技術の向上を図っていくため、月一回の支援者会議を行うなど、日常的に支援、指導を実施した。

Ⅲ、生活介護事業

利用者一人一人の障がい特性を把握し、それに基づいた「個別支援」を課題に、多様なニーズに応じた活動の提供と、関係性を考慮した環境を構築し、安定した日常生活が送れるよう支援を行った。日中は大型モニターやプロジェクターを使用し、BGM や映像を流し、穏やかに過ごしてもらえるよう環境を整えた。軽運動（電動ウォーカー、エアロバイク等）の実施や、リズム体操を企画し、身体に残存能力と体力維持に努めた。「塗り絵」を実施し、好きな絵柄を「自己選択」できるよう種類を取り揃えた。「プラモデル制作」「手芸」は、集中力や手先の運動、達成感を得られる活動を目指した。

強度行動障がい者（重度の知的障がい、自閉症スペクトラム障がい等）の支援にあたり、個々の障がい特性に応じた活動内容の研鑽として、絵カードを活用し活動を選択してもらう等、安心して意思表示が出来るようになり、行動の落ち着きや意欲の向上に繋がり、問題行動が減少し笑顔が多く見られるようになった。個別スペースに緩衝材を使用し、転倒した際の怪我の防止に努めた。

視覚的刺激を軽減するため、壁を白く塗装し、室内を整備したことにより明るく清潔感のある整理

された環境を整えることが出来た。その他、「Nゲージ（鉄道模型）」を設置し、動く電車を視て情緒の安らぎや、新たな感覚刺激につなげられるよう取り組んだ。日中生活を送る中で、心と身体の安定を図る為、週に数回「スヌーズレン」を企画し、穏やかに過ごせるよう実施した。

生産活動では、自家焙煎珈琲や野草茶製造作業、下請け作業等を行う中、過度な負担とならないよう、季節に応じた創作・外出活動を企画・実施し、作業意欲の維持や向上、気分転換を図り、安心して活動が行えるように支援をした。新商品の自家焙煎珈琲ドリップバッグを製造・販売する為、粉末充填機とエンドレスシーラー、原材料ラベルプリンターを購入し、効率的な製造体制を整えた。

アート活動では、「マーブリング」や「クレヨン画」、「ペーパークラフト」等の制作品を館内に展示した。日中活動で取り組んだ作品を、北海道知的障がい協議会主催の障がい者芸術祭「みんなあーと2024」に出展し、複数入選した。入選された事で、日頃の創作活動に対する意欲が高まり、自信や喜びに繋がった。作品（イラスト）を基にした、トートバックやTシャツを制作し販売を行い、表現活動の可能性を深めた。

日高胆振地方会が主催する「バリアフリー交流会」に参加し、他法人との交流を深める機会とし、有意義な時間を過ごすことが出来た。

医療体制では、ポプリ専従の看護師を2名体制で配置。9月に看護師が1名退職したが、利用者の健康管理や安全面、口腔内ケアの実施、緊急時の対応に配慮し、安心・安全に日中活動が送れるように支援をした。

【生産活動】

■自家焙煎珈琲

令和6年度は、国立博物館ウボポイ（民族共生象徴空間）「Sweets café ななかまどイレンカ」、みらいえ「Gelateria Mina Pieno」等、安定したお客様の購買状況が見られた。また、「ななかまど」で、顧客に自家焙煎珈琲を知ってもらう機会を創出する為、隔月でお薦め珈琲のセール販売を実施した。固定顧客の「えましあ」「白老ガス」等を含めて定期的な注文の受注を行った。新商品の自家焙煎珈琲ドリップバッグを製造・販売する為、粉末充填機とエンドレスシーラー、原材料ラベルプリンターを購入し、効率的な製造体制を整えた。イレンカのオリジナル珈琲との差別化を図るべく、5月に新製品のななかまどオリジナルブレンド珈琲を製造・販売した。6月に物価上昇により全製品の価格を見直し値上げをした。収益に関しては、総額約150万円の売上を計上した。

■野草茶

令和6年度は、国立博物館ウボポイ（民族共生象徴空間）「Sweets café ななかまどイレンカ」、「白老町インフォメーションセンター」等、安定したお客様の購買状況が見られた。また、「ななかまど」で、顧客に野草茶を知ってもらう機会を創出する為、隔月でお薦め野草茶のセール販売を実施した。野草茶の原材料であるクマササについては、6月から7月にかけて、森野で約50kgの採取や、竹浦の借用地においてエントの種を蒔き、11月に約5kgを収穫した。6月に物価上昇により全製品の価格を見直し、値上げをした。収益に関しては、総額約60万円の売上を計上した。

■フードバックラベル貼り作業

ダイエットクックより、安定したラベル貼り作業の依頼があり、同法人施設「みらいえ」と作業を分担して行った。令和6年度は576,914円の売上を計上した。また、下請け価格について、昨今の燃料費高騰や人件費の観点から、ダイエットクックと値上げの交渉を行い、協議の結果、令和7年度より1枚貼り0.5円から1円、2枚貼り0.8円から1.5円となった。

■印刷作業

名刺作成作業では、法人内・役場・町内民間業者・札幌視覚支援学校等を中心に注文を受けた。点字の名刺が多岐にわたって定着してきたものと思われる。令和6年度は、企業間での人の往来も回復している傾向も見られており、年間を通して名刺の受注があり、昨年度とほぼ同額の、49,938 円の売上を計上した。

以上、令和6年度の事業収入は 3,763,627 円（積立金取崩し収入等を含む）となり、昨年度収入 3,313,184 円と比較して 450,443 円の増収となった。収支差益 322,868 円については、設備整備積立金に積み立てを行った。月額平均工賃 6,874 円を支給することが出来た。

【創作活動・療育活動・外出活動】

創作活動では「5 月企画」「6 月企画」「七夕企画」「ハロウィン企画」「2 月企画」「3 月企画」等、季節に合わせて活動を実施した。月々の活動で創作された作品を館内で展示する事で、創作意欲の向上に繋げることが出来た。9 月に行われた「みんなあーと 2024」に作品を応募し、多数の作品が入選した。作品（イラスト）を基にした、トートバックや T シャツを制作し販売を行い、表現活動の可能性を深めた。

料理教室は 4 班に分かれて行い、嗜好調査からメニューを決定し、役割を分担して調理を実施した。料理を囲んでの食事会では笑顔が多く、会話が弾む様子が見られた。

軽運動（エアロバイク・電動ウォーカー）を行う事で、健康維持や代謝向上に努めた。プール活動は、5 月～10 月まで実施した。水中歩行やビート板を使用した泳法を行い、身体機能の維持・向上に繋げた他、ボール遊びやビーチバレーを取り入れ、気分転換を図り笑顔が多く見られる様になった。活動時は感染症予防対策の為、マスクの着用や手指の消毒、検温を実施し、安全対策を講じながら行った。

カラオケは 3 班に分かれてポプリ 2 階食堂で実施した。歌う事で情緒の安定や気分転換にも繋がり、充実を図ることが出来た。

下半期より日中生活を送る中で、心と身体の安定を図る為、光や音、振動からなる触覚等の感覚を重視した空間を設置した「スヌーズレン」を週に数回、30 分程度実施した。心休まる時間を過ごす事で情緒が安定し、問題行動が減少して穏やかな様子が見られる様になった。

外出活動は、「水芭蕉見学」「花見」「果物狩り」「夏季レクリエーション」「秋季レクリエーション」を企画し実施した。自然や文化を感じる事で、感性や感受性を育むことが出来た。「日帰り旅行」については、職員が個々のニーズを汲み取り提案し、「意思決定」により旅行先を選択し実施した。（提案内容：「デイキャンプ」「小樽水族館」「室蘭水族館」「札幌青少年科学館」「千歳エスコンフィールド」）各行事に参加する事で情緒の安定や気分転換に繋げることが出来た。

IV、日常生活支援

・基本的な社会生活（挨拶・返事・マナー・ルール）の確立

日中活動を通じて社会的なマナーや身だしなみなどについて各部署にて必要な情報を提供し、利用者自ら問題を提起し話し合いが出来るよう支援した。

・自治会活動への支援

令和6年度は、毎月 1 回の誕生会と全体会を実施し、利用者一人ひとりが活気を持って日々の活動

に取り組めるよう支援を行った。また、古希を迎えた利用者には、お祝いの会を開き、法人から記念品が贈呈された。さらに日頃の頑張りを評価する仕組みとして月間表彰を行い、利用者のモチベーション向上に繋げたほか、6月には法人全体の総会を開催した。また、北海道知的障がい福祉協会主催の障がい者芸術祭「みんなあーと」において受賞したことを受け、仲間の会主催の全体会にてその功績を称え、表彰を行った。

<事業動向>

日程	内容
4月	水芭蕉見学（生活介護） ななかまど・清掃部就労学習会1班：虎杖浜カフェ、わかさいも本舗
5月	GW営業（ななかまど・イレンカ） 桜見学（生活介護） ななかまど・清掃部就労学習会2班、3班：虎杖浜カフェ、わかさいも本舗 よもぎ採取
6月	果物狩り1班・2班：いちご（生活介護） ポプリ仲間の会総会
7月	果物狩り：サクラランボ（生活介護） 夏フェア（ななかまど） ポプリ特別給食：流しそうめん 火災を想定した避難訓練：ポプリ・ななかまど 健康診断 ウポポイ周年記念ウィーク
8月	パン工場・給食部就労学習会1班：小樽かま栄工場、ルタオ本店見学 ななかまど・清掃部就労学習会1班～3班：札幌方面パン屋見学 津波を想定した防災訓練：ポプリ・ななかまど 口腔内ケア
9月	パン工場・給食部就労学習会2班～3班：小樽かま栄工場、ルタオ本店見学 ななかまど・清掃部学習会4班： 木田製粉パン技術研修 社会福祉法人白老宏友会40周年記念事業 日帰り旅行：デイキャンプ（生活介護） 障がい者芸術祭 みんなあーと 2024 にて ・就労利用者全員で作成したリースパンが奨励賞を受賞。 白老グルメフェス 生活介護日帰り旅行1班：デイキャンプ 八幡神社出店
10月	生活介護日帰り旅行2班：エスコンフィールド 生活介護日帰り旅行3班：小樽水族館 生活介護日帰り旅行4班：室蘭水族館 生活介護日帰り旅行5班：札幌青少年科学館 ポプリ特別給食：BBQ 不審者侵入を想定した防犯訓練：ポプリ・ななかまど ななかまど32周年記念感謝祭

11 月	ウポポイ無料開放日 秋季企画：シールスタンプラリー・焼き芋作り（生活介護） 救急救命講習会 インフルエンザ予防接種 お歳暮餅事業
12 月	ななかまど・清掃部学習会：調理学習 パン工場・給食部学習会：一年の振り返りと反省 クリスマス・忘年会（生活介護） クリスマスフェア 年末餅事業
1 月	初売り ななかまど・清掃部学習会：決起集会 新年会（生活介護） パン工場・給食部学習会：食中毒と予防について
2 月	節分 バレンタインフェア 日胆地方会主催バリアフリー交流会：生活介護参加
3 月	火災を想定した避難訓練：ポプリ、ななかまど 松田奈保子さん古希のお祝い
自治会活動	・自治会活動については、利用者が中心となり各種事業を円滑に進められるようバックアップを行った。 <主な活動> ・毎月一回誕生会と全体会 ・月間表彰の実施。

V、健康管理

年1回の健康診断を実施した。その他、食後の歯磨き習慣、毎月の体重測定などを行った。健康診断については、検査結果により、本人、保護者、家族、又GH利用者は看護師や地域支援センターあぷろと連携しながら必要に応じて再検査や受診を勧めるなどの支援を行った。

インフルエンザ対策（予防接種・室内の保湿）やノロウイルスをはじめとする感染症、新型コロナウイルスの感染防止策として、マスクの着用や手洗い・手指消毒の励行、毎日の検温、次亜塩素酸水やアルコールによる消毒を行った。

まん延防止措置として白老町と連携し、利用者、職員がコロナワクチン接種を任意で行った。

歯科衛生講習会は、感染症予防により歯科衛生士の派遣依頼は中止し、看護師を中心に口腔内ケアを実施した。職員が、定期的にブラッシングの仕方や仕上げ磨き、歯ブラシの状態などを確認した。

苫小牧保健所の職員を招き、利用者向けに行っている食品衛生講習会も今年度は中止した。

VI、給食業務

安心、安全な給食提供に配慮し実施しました。利用者への嗜好調査などを実施し、出来る限り要望にこたえ、季節感のある食事や行事食などの工夫を行った。

給食製造は食品事業給食事業部への作業委託とし、利用者2～3名に対し職員2名～3名の体制で技術支援を行いながら進めた。

その他、特別給食として流しそうめん、BBQを提供した。

VII、管理業務

日常業務では、業務効率、安定した事業運営のための研鑽を行いながら事務処理の適正化を目指し業務を遂行してきた。法人内部研修（事務部会）を重ねて事業所相互の協力と連携をはかり、様々な課題提起とスムーズな問題解決に繋がるよう取り組んだ。

施設管理では、令和7年10月のWindows10のサポート終了を見据え、段階的に支援員及び事務員のPCの更新を行う為、6年度では7台更新。事務所の椅子を老朽化に伴い更新した。

研修関係では、法人周年事業の視察研修をはじめ、対面での災害対策研修やオンラインでの事務研修等を受講し、職員のスキルアップに繋げた。

衛生・健康管理面では、毎日朝・夕方の館内消毒（トイレ、共用部分を中心に）を継続し感染症、食中毒防止に心がけた。冬季のインフルエンザ流行時期を前に集団予防接種（任意）、ノロウイルスはじめ感染症の予防強化、加湿器による活動室の湿度保持と換気などの工夫を含め、施設内での感染防止に力を入れて行った。

防災・危機管理に関しては、津波を想定しての避難訓練を実施し利用者誘導の際の注意点や問題点を確認し、災害時の安全確保・心得、避難時の感染対策など学習する機会を持った。

非常災害の備蓄として、社会福祉法人あすなろ福祉会よりフリーズドライのご飯、ビスケット等を購入し、愛泉園倉庫にて保管した。法人防災の日を目途に、非常持ち出し品の内容の確認と入替を行った。

広報活動では、従来の法人機関紙の発行、SNSを活用し店舗商品・イベントの宣伝など当施設の情報を発信した。

苦情解決・権利擁護虐待防止委員会に関しては、法人内において定例会を開催し、情報共有や研鑽を深めた。日頃より些細な利用者間のトラブルや悩み、家族の相談などに対し職員が都度時間をおかず直接対応し調整・解決すること、フォローアップを継続して行うことで、苦情としての取り扱いはなかった。

実習等に関しては、高等養護学校の卒後を見越した実習や中学校の職場体験、行政からの紹介による医療機関退院後の相談を受けた。その後、行政紹介者1名の新規利用契約を行った。日中一時支援事業の利用受入はなかった。

特定技能外国人職員への対応

・育成環境

資格取得に向けた勉強会（週2回）の実施。

実務者研修の実施と国家試験受験資格取得。

タブレット端末の支給。

業務中の勉強時間の確保。

・住居

駐輪所の設置。

和室ストーブの設置。

エアコンの設置。（本部より捻出）

VIII 利用関係状況報告

就労活動収支	就労事業収入	100,808,292 円	(就労B	97,244,694 円	+生活介護	3,563,598 円)	
	その他収入・積立金取崩	418,000 円	・雑収益	109,110 円	・寄付金	46,550 円・定期預金利息	277 円
	就労事業支出	96,777,736 円	(就労B	93,336,977 円	+生活介護	3,440,759 円)	
	その他支出	・固定資産取得支出	218,000 円	・当年度 積立金	4,386,493 円		
利用者工賃実績	総支給額	22,588,006 円	(就労B	20,463,836 円	+生活介護	2,124,170 円)	
	(※前年度総支給額 22,251,588 円)						
	就労B事業	月額平均額 1名	50,156 円	生活介護事業	月額平均額 1名	6,874 円	

<定員構成>

*7年3月31日現在

	定 員	契約数	男	女	入 所 者	退 所 者	備 考
生活介護	20	26	16	10	1	1	・入所：水谷(サービス変更) ・退所：三上
就労継続支援B	40	46	35	11	2	2	・入所：桑原 ・退所：坂本、鈴木睦、水谷
合 計	60	72	51	21	3	3	・重籍 女性1名

<年齢構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
生活介護	0	7	6	5	5	3
就労B	1	7	9	12	16	1
合 計	1	14	15	17	21	4
最高齢者 75歳 / 最年少者 19歳 / 平均 42.3歳						

<在籍年数>

入所年度	6	5	4	3	2	1	30	29	28	27	26	25	24
生活介護	0	0	1	0	0	1	0	3	1	2	3	0	1
就労B	1	2	1	0	1	2	0	1	2	1	0	3	0
合 計	1	2	2	0	1	3	0	4	3	3	3	3	1

入所年度	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	平均
生活介護	0	2	1	1	0	2	1	0	0	0	2	5	生活介護 14年 9か月
就労B	2	1	3	0	1	0	1	2	1	1	10	10	就労B 16年 8か月
合 計	2	3	4	1	1	2	2	2	1	1	12	15	

<障害区分>

療育手帳	A	B	なし	精神	身障
生活介護	14	9	1	(2)	(5)
就労B	10	34	1	(1)	(3)
合 計	24	43	2	(3)	(8)

区分	2	3	4	5	6
生活介護	0	2	12	5	7
就労B					
合 計	0	2	12	5	7

生活介護平均区分

4.65

<居住別>

	自宅	GH
生活介護	11	16
就労B	21	24
合計	32	40

<出身地別>

	白老町	登別市	苫小牧	札幌市	室蘭市	千歳市	江別市	伊達市	三笠市	浦河町
生活介護	13	1	9	0	1	0	1	0	1	0
就労B	24	5	8	1	4	1	1	1	0	1
合 計	37	6	17	1	5	1	2	1	1	1

72

令和 6 年度の動向

	施設業務関係	就労 B・生活介護事業関係	研修・行事他
4 月	辞令交付式・永年勤続表彰 仲間の会歓迎会 各種会議 (支援会議、職員会議、ケース会議、 部署会議、運営会議、管理者会議) 会計事務所任意監査	利用者工賃 5 年度期末手当 生) カラオケ・療育、創作活動・水芭蕉見学 就) 期末手当支給 就労学習会	利用者全体会 利用者誕生会 強度行動障害 WEB 研修
5 月	法人幹事監査 決算理事会 各種会議	生) カラオケ・プール・療育、創作活動 料理教室・桜見学 就) GW 営業・よもぎ採取・ 就労学習会・衛生検査・漏電検査 急速冷凍庫設置	利用者全体会 利用者誕生会
6 月	理事会・評議員会 各種会議 消防設備点検	生) カラオケ・プール・ 療育、創作活動・果物狩り・料理教室 就) 就労学習会 体験利用受入	仲間の会総会 利用者全体会 利用者誕生会 日高・胆振地方会理事会
7 月	健康診断 各種会議 会計事務所任意監査 避難訓練 (火災想定)	生) カラオケ・プール・療育、創作活動 料理教室・果物狩り・カシス狩り 就) 就労学習会 ななかまど夏フェア ウボボイ周年記念ウィーク	利用者全体会 利用者誕生会 野外給食 (流しそうめん)
8 月	夏期休業 各種会議 防災訓練 (津波想定)	利用者工賃夏期手当 (B)・口腔ケア 生) カラオケ・プール・療育、創作活動 就) 就労学習会 食品衛生協会巡回	利用者全体会 利用者誕生会 経理、管理者研修・経理実務者研修 ご近所野菜市開始 (9 月まで)
9 月	法人幹事監査・理事会 各種会議 サービス調整会議・モニタリング 会計事務所任意監査 法人 40 周年記念イベント	みんなあーと出展 (就労 B 奨励賞受賞) 生) カラオケ・プール・ 療育、創作活動 外出活動 (デイキャンプ) 就) 就労学習会 北海道女性大会、グルメフェス、八幡神社 祭典 販売	利用者全体会 利用者誕生会 木田製粉パン 法人周年記念視察研修 A

10 月	各種会議 防犯訓練	生) カラオケ・プール・療育、創作活動・ 料理教室 日帰り旅行・ハロウィン企画 就) ななかまど感謝祭 ハロウィンフェア イレンカ衛生検査	利用者全体会 利用者誕生会 周年記念視察研修 B 防災対策研修会 野外給食 (BBQ)
11 月	インフルエンザ予防接種 法人幹事監査 各種会議 会計事務所任意監査 防災訓練 商工会優良従業員表彰	生) カラオケ・療育、創作活動・ 料理教室 日帰り旅行・秋企画 (焼き芋) エアコン設置 就) お歳暮餅受注開始 ウポポイ無料開放日	利用者全体会 利用者誕生会 救急救命講習会 日高・胆振地方会支援研合宿研修 権利擁護伝達研修講師：芳野支援員
12 月	冬期休業 法人幹事監査 理事会 各種会議 消防設備点検	利用者工賃冬期手当 生) クリスマス忘年会・カラオケ 療育、創作活動 就) ななかまどクリスマスフェア・お歳暮 年越し餅販売・就労学習会 白老中学校餅つき	利用者全体会 利用者誕生会 キャリアアップ研修 利用者座談会 (周年事業)
1 月	冬期休業 各種会議 会計事務所任意監査 集団指導 (書面)	生) カラオケ・療育、創作活動・ 新年会、料理教室 就) ななかまど初売り・就労学習会	利用者全体会 利用者誕生会 全国就労支援部会実行委員会
2 月	各種会議 サービス調整会議・モニタリング	生) カラオケ・療育、創作活動 日胆バリアフリー交流会 就) 就労学習会 ななかまどバレンタインフェア	仲間の会節分 利用者全体会 利用者誕生会 全国就労支援部会実行委員会
3 月	各種会議 三者面談 法人幹事監査・理事会 会計事務所任意監査 避難訓練 (火災想定)	生) カラオケ・創作活動、料理教室 就) 棚卸 チャリティ演芸大会販売 食品衛生講習会 保健所検査 ななかまど春爛漫フェア ウポポイ休館 (1 日～10 日)	利用者全体会 利用者誕生会 苦情解決講習会 処遇改善研修会 全国就労支援部会実行委員会 古希お祝い
4 月		利用者工賃 6 年度期末手当	